

平成 27 年度 第 3 回 稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議  
議事録 【要点記録】

【開催日時】平成 27 年 12 月 17 日（木） 午後 7 時から 9 時 15 分

【会 場】地域振興プラザ 4 階 中・小会議室

【出席者】■委員；出席者 13 人

- ・ 稲城市自治会連合会（川島 幹雄氏）
- ・ 稲城市商工会（奈良部 義彦氏）
- ・ 稲城市消防団（城所 達也氏）
- ・ 稲城市体育協会（中家 敬士氏）
- ・ 稲城市教育委員会（城所 正彦氏）
- ・ 教育関係及び稲城市三曲協会（栗井 洋子氏）
- ・ 稲城市芸術文化団体連合会（安東 道正氏）
- ・ 稲城市学校 PTA 連合会（高橋 やよい氏）
- ・ 稲城市青少年育成地区委員会正副委員長会（石橋 良生氏）
- ・ 稲城国際交流の会（藤田 佑二氏）
- ・ 東京稲城ロータリークラブ（川島 保之氏）
- ・ 国際ソロプチミスト稲城（砂塚 有子氏）
- ・ NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ（角田 享氏）

<欠席>稲城市農業委員会（松本 一宏氏）、稲城青年会議所（椿 克之氏）

■行政

- ・ 事務局 4 人（企画部長（武藤 路弘）、企画政策課長（杉本 勇人）、  
企画政策課計画調整担当係長（宇田 雅彦）、企画政策課主任（井田 聡））

【開会】

委員 長：定刻になりましたので、27 年度第 3 回の稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議を開催いたします。まずは事務局より資料の確認をお願いいたします。

宇田 係 長：それでは資料の確認をさせていただきます、本日お手元に配布しております資料は、10 点ございます。

- ① 次第
- ② 資料 1、第 2 回海外姉妹都市提携検討市民会議 27 年 11 月 25 日開催（案）
- ③ 資料 2、日本との姉妹交流を希望する海外の自治体（一覧）
- ④ 資料 3、日本との姉妹交流を希望する海外の自治体（詳細版）
- ⑤ 資料 4、東京都区市町村等の海外姉妹都市・友好都市一覧
- ⑥ 別紙、一般財団法人自治体国際化協会（CLAIR：クレア）について
- ⑦ 名簿
- ⑧ 座席表
- ⑨ 第 2 回の議事録（要点記録）

⑩ 稲城市の海外交流実績（※前回の資料の差し替え）

以上 10 点になりますが、こちらは、傍聴されている方も委員の方も、皆様同じ資料をお渡ししています。ご不足ございませんでしょうか。

なお、議事録につきましては、皆さまのご発言の内容をご確認いただきましたので、要点記録として整えさせていただいております。後日、お時間のあるときにお目を通しただければと思います。

**【報告】前回、ご回答できなかった内容等について報告**

委員長：それでは議題に入る前に、前回ご回答できなかった内容等について報告ということで、事務局から説明をお願いします。

杉本課長：よろしくお願いします。前回、ご回答できなかった内容としまして 1 点目でございます。前回の資料の中で平成 23 年度の国際教育交流事業交付金の執行が 1,365 円あり、その内容についてということです。教育委員会に再度確認しましたところ、タイのワッタナー校より、中学 1 年生が三人来日されおり、その際に行った交流で、稲城第三中学校で茶道の体験をして、その賄い材料ということで、和菓子を購入して、対応してきたということです。

続きまして、この内容を踏まえまして、第 2 回の会議で配布した資料 2 について 2 点ほど修正をさせていただいておりますのでご説明いたします。1 点目が 1 ページ目になりますが、平成 16 年 8 月 4 日～13 日の内容ですが、こちらは再度、国際交流の会の藤田さんと確認させていただきましたところ、行政の方でも再度資料を確認しまして、稲城県の方に稲城市として、結論を急がずしばらく猶予を持つため「将来的に結実することを願う」ということで回答文を出していることが確認できましたので、こちらの方の追記をさせていただいております。続きまして、4 ページをご覧ください。こちらは、今、ご回答できなかった内容についてご説明したとおり、平成 23 年にタイのワッタナー校との交流を追記させていただきました。このような形で、資料 2 については、更新が平成 27 年 12 月 16 日現在という形で資料を作成させていただいておりますので、差替えの方をお願いいたします。

続きまして、資料 1 をご覧ください。こちらは、前回の会議のまとめということで、第 2 回の会議の議題ごとにどういうご意見等を出していただいたのかということをもととしてまとめております。まず、1 枚目は、いままでの海外交流実績ということで、行政、稲城国際交流の会、東京稲城ロータリークラブ、国際ソロプチミスト稲城、稲城青年会議所からいままでの海外交流実績について報告をしていただいて、意見交換を行いました。その内容について、まとめております。

続いて 3 ページでございますが、議題「海外姉妹都市提携の在り方について」ということで、資料を参考に海外姉妹都市とはどういうものなのか、交流する意味などについて意見交換を行いました。そちらの内容についても、皆様からお出しいただいた意見について、まとめております。

最後に 4 ページ目になりますが、最後に行政の方で発言した内容についても、「海外姉妹都市提携の交流の在り方については、次回の議題にも絡むことから次回のご意見をいただきながら進める」また、「どこの都市ではなく、海外との交流を進めるのであれば、

どんなことができるのかということでご議論をいただきたい」ということで、最後行政側でお願いした内容についても資料の中で出させていただいています。

ご質問等ありましたら、お願いしたいと思います。

委員長：ただ今、事務局より説明がありましたが、皆様よろしいでしょうか。

<質問・意見なし>

杉本課長：なければ、「案」をとらせていただきます。

### 【議題1】海外姉妹都市提携を希望している海外の都市について

委員長：それでは、議題1、海外姉妹都市提携を希望している海外の都市について。事務局より説明をお願いします。

杉本課長：それでは、議題1の海外姉妹都市提携を希望している海外の都市についてということで、資料2と資料3、それと別紙をご用意ください。この3点について、ご説明をさせていただきます。

まずは、資料2、資料3ですけど、こちらは自治体国際化協会のインターネットで公開されている情報について、提供させていただいています。まず、資料2ですが、こちらは、平成27年12月7日現在の日本との姉妹都市交流を希望する海外の自治体ということで、自治体国際化協会の公表している資料を基に一覧表にまとめたものになります。現在、1番目のアメリカの自治体から97番のマラウイ共和国まで、日本との海外姉妹都市を希望している都市を列挙しています。

では、この都市が具体的にどのようなことを希望しているかということが、資料3になります。内容につきましては、それぞれの自治体の概況であったり、提携の希望先、それぞれの町にあった規模であったり、具体的な事業等が書かれています。また、希望交流内容といたしまして、それぞれの国の自治体の方から、要望が出されております。これら情報を参考にして、海外姉妹都市を探していき、日本の市は、相手側と交渉していくということになります。

続いて別紙をご覧ください。こちらは自治体国際化協会についての概要を書いた物です。海外姉妹都市提携に関する支援ということでは、姉妹都市交流の情報収集、提供、相談等を受けることを行っており、また、姉妹都市希望団体を協会のホームページ上での紹介ということで、多くの自治体に紹介をしているということです。さらに、現地視察をする場合の通訳の斡旋や車両の斡旋にはご協力していただけるとのことですが、その費用は自治体負担であるということです。あくまでも、これらの情報は提供しますが、それぞれの自治体は、これらの提供資料や、いろいろなきっかけを踏まえて、独自に海外姉妹都市を探して、対応するというものです。議題1についての説明は以上です。

委員長：説明が終わりました、何かご意見等はございますか。

委員：資料2では、日本との海外姉妹都市を希望する団体がたくさんあるのですが、これらの団体は、どのような目的を持って、姉妹都市を希望されているのかわかるのならば教えていただきたい。

武藤部長：資料3の一番右側の列に、希望交流内容ということ、自分達は相手とこういうことをやりたいということが載っています。

委員 長：他にいかがですか。

委員：日本との交流を希望している国は、中国が多いと感じました。やはり、中国は政治的にもいろいろあると思いますが、こういう姉妹都市交流についても、中国の目的は、異文化交流とは違って、商売の方に結び付けたことに重点が置かれているようなので、ちょっとどうかという気が若干ありました。

武藤部長：こちらの資料にある一覧は、クレア（自治体国際化協会）のホームページに載っているすべての情報を載せています。クレアのホームページでは、地域ごととかエリアごとにそれぞれバラバラに載っていますが、それを一覧にまとめた形になっています。この情報を見ながら、自分達でどこかいいところを見つけるといことになります。

委員：クレアというのは、標準機関のように捉えていい団体なんですか。スタンダードとか一番一般的な機関なんですか。また、他にもこういう内容を扱っている団体はあるのでしょうか。

武藤部長：はい。スタンダードな団体です。

杉本課長：自治体の国際化を支援する一般財団法人ということになりますので、私どもが海外姉妹都市を検討する中では、そこにいろいろ問い合わせをしながら、情報を得るようにしています。

武藤部長：他の機関としては、日本国際交流センターという財団があり、こちらは、どちらかという具体的な交流をしている内容などを調査したり、まとめたりそういうことをやられているのは存じ上げています。ただし、ご紹介についてはクレアの方と認識しています。

委員：フォスターシティ市はクレアの「日本との交流を希望する団体」には登録していないということですか。

武藤部長：はい。

委員：稲城市の小・中学校の外国語教育では、英語を主体に学習をしているところです。英語は世界共通ということはあるんですけど、この一覧表を見てみますと、英語を母国語として使っている国が非常に少ないという印象を持ちました。一覧の中では、アメリカだけなのかなという印象を持ちました。

委員：姉妹都市のきっかけというのはいろいろあって、このようにクレアを通してという場合や、フォスターシティ市のような形で、何かつながりがある場合など、いろいろな方法があると思います。そこら辺はいろいろ可能性があります、この資料に出ている部分という意味では、英語圏がいいのかなと思います。

委員：97の町が出ていますが、10年前に同じようなリストがあったときも、2～3件違うくらいでほとんど同じ国が載っていました。実態もどかがリストアップしているかというのもほとんど変わらないです。現実にはこれは1つのオフィシャルなデータだと思いますけど、データに載せずに、その他のところで、実際に話を進めたというのが非常に多いと感じています。

委員 長：10年間ずっと続いているということなんですか。

委員：実績が出ていないということです。

委員 長：今意見を聞いていると英語圏がいいという話がありました。私も同様に感じています。10年後には日本も移民の世界になってくるとは思いますが、そうすると英語ができないと、人

も使えません。将来、工業や建築も全て、商工会も英語ができないと駄目という時代になると思っています。それと商工会に海外のいろいろな国から話があるんですけど、みな英語が堪能です。

副委員長：事務局へ確認です。今回で、会議が第3回まで来ました。前回の会議では、行政の方から「どこの都市とではなく、海外との交流の在り方を」という言葉がありました。一方、何か特定の都市ありきでこの会議がスタートしている風に捉えている方もいます。この会議は、稲城にとって姉妹都市・友好都市というのはどうあるべきなのか、それが今回は海外版というようなことですので、市長の冒頭の挨拶もありましたけど、あれも一つの候補として、改めて海外姉妹都市の在り方と選定をするんだというスタンスに立っていいのでしょうか。というのは、市議会のいろいろなご発言を見ていると、その辺について触れているところが多いのだから、そこをリセットということでスタートしていると理解しているのですが、そういう捉え方でいいのでしょうか。

武藤部長：基本的にはリセットでいいです。言ってみれば稲城としてまず、海外姉妹都市を交流をすることはどういう意味があって、それが必要なのか、または必要でないのか等を含めてご議論をいただくというのが一つです。それと稲城市にとって、どういった交流がいいのか、何が我々にとってプラスになり、また相手方と一緒にになって相乗効果が得られるのかというのも決めていただかないといけないと思っています。海外都市との交流をやると、こんな素晴らしいことができる、ああいったこともできるんじゃないかと、様々な可能性を皆さんにご発言をいただいた上で、稲城市では何を一番に据えて、将来何を目指して海外都市を交流をしていくのかということをご議論いただきたいと思います。さらに、どんな候補地があるのかということの中で、マッチングをする必要が出てくるのかと考えています。

委員：私が調べた中で、愛知県の淑徳大学の川田先生の論文があります。これは日本の地方自治体による姉妹都市交流の現状と課題について書かれていて、異文化コミュニケーションの視点からという副題がついています。内容としましては、失敗例なども出ているんですけど、やはり、目的が一番必要なんだと書いてあります。目的がしっかりしていないと、どうしても途中で主張が変わって話が途切れてしまう、ということがこの論文に書かれていました。

これはひとつの提案なのですが、この論文を皆さんでシェアしながら、検討を進めるのがいいと思いました。どうもここで、目先のことだけで話をしていても、どうしても話が前に進んでいけないということがあります。これを私も2回ほど読み返してみたんですが、非常に論理的に書かれている論文ですので、お薦めしたいと思います。

委員長：その論文を先に読ませてもらえば良かったですね。先ほど商工会で移民の話をしましたけど、なぜかと言うと少子化の問題があります。これを解決するために、来年から商工会の中で、育児休業の義務付けを提案しようとしています。一部上場の一流企業は全部育児休業が取れるのですが、商工会で担当しているような小さな会社は取ることができません。それを取れるように義務化ができるようにしようと、来年持ち上げるのですが、それが実行されるのが、提携してから10年ばかりかかりますので、それから子どもができたって、少子化へは絶対に追いつきません。それまでに何が必要かと言うと移民で対応するしかあり

ません。そのために私も都連に話をしたのですが、「いいね。じゃあやってくれ」ということになり、やるのですが、育休が夫婦でとれるところじゃないと子どもを育てるのは難しいですから。そのタイムラグを埋めるにはどうしたらいいかと言うと、先ほどから言っていますが移民なんです。そう考えると、やはり子どもたちには英語圏を見てもらい、勉強してもらいたい。少子化へのタイムラグをどうしたらいいかと言うと、方法論になりますが、英語圏に姉妹都市ができて、勉強できるようにする。そういう環境を作ってあげるのはいいのかと思います。

委員：それはこの論文の中にも書いてありまして、どうしても語学、言葉の障害というのがあります。英語であるならば、世界的な言語になりつつありますので、一番良いと思います。

委員：稲城市の教育プランのキーワードの中に、「国際理解」というのがあります。外国語教育あるいは国際理解を通じて、国際性を育むというもので、そういうことを考えると、交流の主体となるのはやはり青少年というところを切り口として入るのかなと思います。そして、国際性を育むということであれば、やはり、海外姉妹都市の提携という部分は、早急にかというか、近々に考えるべき課題であると私は思っています。

委員：実家のまちでは、カナダの都市と海外姉妹都市を提携しており、知人に交流内容などを聞いたところ、中学2年生が短期留学できる環境はできているということでした。ただ、10年くらい継続しているそうですが、今年は受入先がなくて、事業自体がなくなりそうな雰囲気であり、やはり継続していくというのは難しいと思いました。また、一般の市民の方は、海外姉妹都市に関してあまり情報がないようで、相手先が観光都市なので、観光情報に少し載っているだけらしいです。市民に浸透させることが難しいと思いました。

委員：海外姉妹都市を提携する目的については、「なぜ姉妹都市交流をやるのか」というのが一番の問題だと思います。交流の中身をどのように限定するか。稲城市として、どういう分野で交流がしたいのか。学校関係なのか、あるいは芸術文化、経済関係、スポーツ関係なのか。いろいろな他の町でやっている交流というのは一部に特化して、「この件について交流をしたい、だからこうなんだ」というのがあると思います。これがきっかけで姉妹都市をやりましょとなり、どういう風なことで、きっかけになったというのが、目的に繋がる。そうすると市民も納得すると思います。今お話があったように、一般の人はあまり関係がなく、学校だけの交流という風であれば、それは学校関係だけに特化しているということです。他にも、市民がスポーツで向こうといろいろな交流しているという市であれば、それに特化するという市も結構あります。なので、そこら辺については、どういうきっかけで、何故そういう交流をしたいかということに尽きるかなと思います。稲城市としては、どういう交流が子どものためになるのかという視点で、友好関係を結ぶということではないかと思っています。

委員：交流の目的がすごく大事というのはわかります。今出ている中では、英語圏という話がありますが、それは語学のことで言っているのか、付き合いやすいから英語圏ということなのかわかりません。英語圏で言うと、フィリピンもかなり勉強熱心なところで、歴史的な背景もあり、英語がかなりできます。この一覧にのっているフィリピンのまちがどういう場所かは分かりませんが、フィリピン自体はすごく子どもの教育、特に英語には力を入れているという所ですので、英語圏と言ってもアメリカだけじゃないのかなと、この表を

見て思いました。また、ネパールも勉強熱心なところで、うちにも何回かネパールの方がいらっしやったのですが、3ヶ国語くらい喋れる方も多いです。地理的なところで難しいのかもしれませんが、そういったところも可能性としてはあるのかと思いました。

委員 長：フィリピンは私もよく行ったんですけど、言語はスペイン語と、タカログ語と英語ですね。ただし、治安は良くないと思います。

委員：アメリカだって何人も犠牲になった事件はあります。

委員：いくつか英語圏という話がありましたが、資料として97の希望団体の一覧が参考として出ていますが、そういうところからどんどん候補を絞り、検討していった方がいいと思います。

委員：英語圏でという形でやると、範囲が非常に狭まります。具体的にはフィリピンの話が出ましたが、治安の問題は別にして、インドやその他の東南アジアの国だって、基本的には交流をするとすると、英語で交流することになると思います。さらに、相手国のレベル的には比較的の上流の方と交流するのであれば、範囲はもう少し広げても構わないと思います。

また、英語圏でここには出ていませんが、オーストラリアとかイギリスもあります。地域だとか、どういう対象と交流をするかということでも違うので、あんまり範囲を狭めなくてもいいんじゃないかと思います。

委員 長：他にはいかがですか。だいたい意見も出尽くしたようですので、議題2に移らせていただきます。

## 【議題2】海外姉妹都市との交流について

委員 長：それでは議題2「海外姉妹都市との交流について」ということで、事務局から説明をお願いします。

杉本課長：それでは資料の4でご説明いたします。「海外姉妹都市との交流について」ということで、今いろいろご意見がありましたが、具体的にどういう交流ができるのかという事例として、東京都の区市町村等でも海外の姉妹都市・友好都市を結んでいるところもたくさんあります。それらの情報を資料にまとめたものがこちらになります。区市町村等がどういう国と、どういうきっかけで、どういう交流をしているかをまとめておりますので、いくつかポイントを絞ってご説明いたします。まず6ページをお開き下さい。ここから市町村の情報に入りますが、まず八王子市は中国、台湾、韓国と多くの市と姉妹都市を結んでいるということで、いろいろ教育交流、行政交流、文化交流等を行っているということです。次に立川市は、アメリカのサンバーナディノ市と提携しており、教育交流として、高校生の交換補助事業をやっているということです。次の7ページの青梅市ですが、最近、周年事業で新聞に載っていたりしますが、きっかけが「青少年に夢を」を合言葉に、当時姉妹都市提携を望んでいたということであり、地理的条件や歴史的背景等を考慮し、市内在住の企業家を通じて、ドイツの方と姉妹都市を探し求めて、双方の合意に至ったということです。交流も盛んで、青梅マラソンもありますので、スポーツ交流では相互に選手団を派遣しているということです。また、青少年の友好親善使節団の受け入れということで、ホームステイ等も行っています。次に8ページの府中市では、オーストリアのウィーン市と結

んでいるのですが、これは検討委員会を立ち上げて、歴史、芸術文化、近代的な都市づくりだとか、共通点、交流実績などを基に、ゼロベースで検討を進めてきたということです。ウィーン市は当初候補にまったく入っていなかったそうですが、検討の最中に、日欧修好120周年で府中市のジュニアアンサンブルがウィーンに行き、府中の文化ホールの名称がウィーンホールと名付けられ、そこで、当時のウィーン市の市長の口添えもあり、これらがきっかけとなり、提携を結んだということです。教育交流が主で、高校生の相互派遣をしており、その他、毎年ではありませんが作品交流などもやっていて、それぞれの児童生徒の作品の交流展示を行っているということです。また、国分寺市は、南オーストリアのマリオンと提携しており、交流事業として海外の手紙交流プロジェクトという手紙の交換をやりながら交流を深めているということです。最後に、10ページをご覧ください。稲城市と友好都市を結びました野沢温泉村は、既に海外のオーストリアのサントアントンと姉妹都市を結んでいます。これは1930年にハンネス・シュナイダー氏が来日して野沢温泉スキー場でアールベルクスキー術を講習した際に命名したシュナイダーコースなどの由縁から始まり、これがきっかけで姉妹都市提携を結んだということです。こちらは教育交流ということで、野沢温泉村の中学生とサントアントンの中学生の親善交流訪問を行っているということです。また、職員の研修派遣ということで1週間から十日間、村の職員を派遣し交流を行っているということです。

飯塚市につきましては、カリフォルニア州のサニーベルと友好都市を結んだ中で、色々な交流を行っているということで、フォスターシティー市に視察に行った時にも、この交流事業については紹介をいただきました。

それと大阪府の豊中市、アメリカのカリフォルニア州のサンマテオと交流をしており、サンマテオの学生の使節団受け入れや、高校生の親善使節派遣の支援ということで、色々な交流を行っているということです。

これらは一例になりますので、稲城市として、海外姉妹都市との交流というのは、どのようなことができるのかという意見交換の資料としていただければと思います。説明は以上でございます。

委員長：ただ今事務局から説明があったように、各区市町村、様々な取り組みを行っておりますが、稲城市として、今後、海外都市と姉妹都市を結ぶとなった時にどのような交流ができるのか、皆様のご意見をいただきたいと思っております。

委員：資料を見ると、提携のきっかけとしては、民間の交流や学校間の交流などが行われていたり、外国の方がたまたまその市にこられて交流が行われたりすることがあり、その後、ある程度の年数を経てから、提携に結び付くという段取りのようです。たまたま府中市の場合は、検討会で検討している時期に、ちょうどウィーンからそういう話があったということです。今行っているような民間や学校の交流の中から、選んぶというのが大方というように思います。また、小・中・高校生、学校教育関係、いわゆる教育関係の交流が多いように見受けられるので、稲城市もそういうことを考えると、青少年のための姉妹都市と言うのを考えていくことがいいと思います。

委員：資料に目を通してみると、文化交流というのは必ず入っています。稲城市としても芸術文化の関係を始め、向うからインプットされるだけではなく、こちらがアウトプットする部

分も随分あると思います。伝統文化を含めて、そういう物を我々は財産としながら、提携先を決めていくのがいいのではないかと思います。

あと一点、先ほどご紹介しました論文に載っていたことなのですが、いろいろある交流の例では、斡旋業者がホームステイ先を斡旋して、交流をするものもあるのですが、斡旋業者を通すホームステイと、姉妹都市を結んだところとのホームステイでは、内容の濃さが全然違うということが書いてありました。何が違うのかと言うと、斡旋業者のところは、お金だけで行っているような感じで、いわゆる民宿に泊まっているみたいな感じの延長線上であり、一方、姉妹都市のホームステイは非常にアットホームになるらしいです。実際、私は、そういう体験をした人の話を聞いたこともあるのですが、そういう意味では、先ほど言われたように、青少年を中心とした文化交流というのを目的としてやっていくと非常にいいものができるのではないかと考えています。

委員：今のご意見に賛同なのですが、ただ、大空町へ姉妹都市として学生が行っているということも踏まえると、きっかけは青少年でいいかもしれませんが、それ以上にもっと広範囲に、青少年から高齢の方まで、芸術文化や幅広くスポーツ等へと交流内容の視野を広げていくべきだと思います。

委員：資料の一覧を見させていただくと、やはり事業分類の中では教育交流が非常に多いという印象を持ちました。小・中学生で教育交流を行うと考えた場合、選ばれた特別の子どもたちだけが行くというような形より、なるべく多くの子どもたちが参加ができるような体験ができるような事業であるほうが良いと思います。限られた予算の中でのことだと思いますので、いきなり、子どもたちを選んで海外へ派遣するというような話ではないのかなと思います。そうであるならば、インターネットを使って、スカイプなどもありますから、画像を使って向こうとやりとりをする。そんな形から初めて、なるべく多くの子どもたちに、世界を見てもらい、相手国を見てもらえるような環境もあっていいと思います。スカイプなんかは時差もわかりますし、そこでお互いの議論活動があれば、文化の違いも分かるだろうし、そういったところから、画像を通しての交流もあると思います。

委員：日本の中でもインターネット会議が多くなっていますし、スカイプを使った小・中学生の世界との交流というのも、既に実施している例が多くあります。稲城市でも姉妹都市ができれば、そういう姉妹都市の学校同士で、スカイプを使って子どもたち同士が直に話せると思います。また、限られた人たちだけではなくて、もっと広く考えれば大人も子供もみんなが、姉妹都市に色々な場面で参加ができると思います。姉妹都市にならないとなかなか広いお付き合いはできないと感じました。

さらに、中高生の海外留学にしても、iPadとかで、子どもが直接話せる時代です。確かに心配なことは心配ですけど、そういう機械を使えば世界は広いですけど、身近に机の上で話もできます。例えば、子どもがホームステイに行っている家庭の保護者の方であっても、自分が英語が話せなくて、向こうのホームステイ先の方々とも、子どもを通して話をするだけで、会話ができるんじゃないかと思います。

委員長：携帯の翻訳機能を使えば、英語になる時代です。

委員：インターネットで常に世界中どこでも繋がります。

委員：稲城市は安全安心のまちなので、相手国としても、稲城と姉妹都市になったら安心だと思います。

います。子どもたちを安心して送り出せるような気がします。

委員 長：稲城市は安全安心なまちとして、首都圏ナンバー1です。

委員：教育交流だけじゃなく、また、若い子から、大人まで、幅広い年齢層が交流できるようになればいいと思います。私は演奏旅行で海外の方に行ったことがあるのですが、ドイツに行った時には、ドイツの人は英語は喋らず、ドイツ語でないと話ができませんでした。ホームステイもしたのですが、各家庭で一人の受け入れだったため、ジェスチャーだけのコミュニケーションとなり、苦勞をしました。やはり英語圏の方が良かったという気持ちがあります。

委員 長：ヨーロッパの方は、英語が話せても喋らないですからね。

委員：少しは向うも英語が分かるのでしょうか、絶対使わないですね。

委員 長：他にご意見はありますか。

委員：いろいろなツールを使ってとりあえずスタートさせるというご意見がありましたが、最初からホームステイということではなくてもいいかもしれませんが、論文の成功例では、大分県の別府市が紹介されているのですが、最初はホームステイを受入るときに、ものすごく苦勞したそうです。しかし、それを継続していくうちに、市民に浸透していき、外国の方がわりと市に馴染み出して、最初は受入先を一生懸命探さなければいけなかったところが、探さなくても「私の方でいいですよ」というふうになったということが、この論文の中に書いてありました。

委員 長：一回道しるべを作ってあげれば良いということですね。学校では、みんなパソコンがあるらしいので、学校同士で交流をスタートすることが良いと思いました。

委員：今はそういうことができるので羨ましいと思います。そこからどんどん交流が広がってけばいいと思います。

委員：いろいろな交流でということですが、例えば、富士吉田市は、山を通じた自然環境という形で、コロラド・スプリング市、フランスのシャモニ・モンブラン市と姉妹都市提携をしています。また、山形の天童市の場合、イタリアのマロスティカ市と人間将棋と人間チェスという形で、交流が始まり、その後どんどん発展していき、スポーツの表彰とかまで広がっていきました。それが続いてニュージーランドとか、中国だとかとも提携をしました。それから、高崎市の場合は、アメリカのミシガンのバトルクリーク、ブラジルのサントアンドレ、中国の承德、チェコのプルゼニ、フィリピンのモンテンルパの5つのまちとお互いに環境プログラムというのを作っており、お互いに会議をやっています。その会議の成果を、市民・企業・教育関係等に、どのように反映させるかというようなことで行っています。文京区はドイツのカイザースラウテルンと提携していて、定期的にサッカーの試合をやっています。これは、ただ向うに行って、こちらに来てというだけではなく、一つのプログラムの中で、色々なイベントを行い、市民も参加していくというような形です。

稲城市としても、そういう仕掛け、あるいは、何に重点を置いて交流をするかということが重要です。例えば、稲城市には多摩川衛生組合があるので、ごみ焼却・ごみ問題を一つの材料にして、話をするのも良いのかと思います。

委員 長：それをやる上でもネットなどをフル活用するといいと思います。

委員：語学の問題もありますが、基本的に何をやるかが決まれば、それに伴って語学はそれなり

についてくると思います。

委員：小学校6年生の野沢温泉村の宿泊体験では、ブナの植栽をしており、稲城100年の森というのが野沢温泉村にあります。私も見に行ったことがあります。結構大きくなっている木もあり、非常に夢のある事業だと私は関心しました。例えばそんなことが、海外の町ともできるようになれば、面白いと思いました。その場合は、子どもだけじゃなくて、全体的な部分での交流ということになります。

委員：そういった交流事業は、すでにやっているところも多いです。農業と言いますか、野菜だとかの繋がりもありまして、日野市は、梨の産地であり、梨と似たオレンジの産地であるアメリカのレッズランド市と提携しています。

委員：皆さん前向きな話をしているので、私は戻った話をしますけど、例えば、教育委員会では、大空町とホームステイをやっています。自分の子どもも女満別時代に二人を行かせてもらったのだけれども、相互交流になります。稲城からは限られた人だけが稲城に行くのですが、大空町からこっちへはほとんど全員が来ます。毎年です。その辺は相当な温度差があります。東京と地方では、全然違い、稲城と大空町を比べても全然違います。同じ国内でもすごく対応が違う。私自身もずっと前に、農業の関係で最初の年か2年目に行かせていただきました。今でも別の人達が代替えして交流してるようです。

このように交流は、子どもたち、青少年を含め、現実問題として、結構、厳しいところがあります。ただ、その辺の反省が全然聞こえてきません。行くことはいいと思っているのですが、稲城から行くのは限られた人間で向うの子は全部来る。そして、稲城側も受け入れてはいますが、大空町に帰った子たちの一部では、稲城のことを良く思って帰らなかったということも聞いています。日本の国内でも相当温度差があるということを考えて、何を最初にやるかをよく考えないといけないと思いました。

委員：先ほどの話は、その辺の反省を踏まえた話で、特定の子もだけでなく、なるべく多くの子どもたちが経験・体験ができるような事業であって欲しいというのが私の一番の願いです。

委員：大空町は、向こうが全員、こちらが一部ということになるので、なかなか温度差が埋まりません。大空町のことはここで議論する内容じゃないのですが、さらに遠い国との交流となると、考えなければならないことも多いと思います。韓国は外国の中で一番近いけど、歴史的に違いもあり、中国も近いけれど、歴史的にいろいろあります。

僕は英語圏とそういう関係ができればそれはいいと思いますが、特定の国を選定するのは、なかなかこれからの問題です。その辺も踏まえて、何を最初の切り口にするかというのを少し議論をしていかないといけません。大空町との交流の場合もそうであるように、小学校で行くには、稲城の場合は、担当校を決めてやりますが、担当校は持ち回りの順番になりますので、その時々担当校の担当になった先生によって、随分対応が違う年もあります。やり方等を考えないと厳しいと思いますし、いつかはということも議論しないといけないと思います。

委員長：要は方法論を考えて行こうということですか。これも考えなければいけない問題ですが、方法論というのは何かしら出ていますし、いままでの反省点もあるようですので、今後、議論していただければと思います。

- 委員：反省しないと交流は途切れてしまうと思います。こちらの想いと、向うの想いが上手く噛み合わない、何年かして「じゃあ今回は一回休もうか」ということになってしまい、途切れてしまいます。お互いにプラスになるような事業を考えないといけないと思います。
- 委員：今の話ですけど、確かに大空町との交流も、向うの子どもが稲城に来ますが、稲城の人が大空町に行かないというのは、行けば今度、受け入れなければいけないというのが先に出てしまうそうです。向うの人もこっちに来たがっているようなのですが、受け入れ先を探して、「受け入れていただけますか」とお願いすると、「いや、部屋がないから」と断られ、「子どもが来るのだから、子どもと同じ部屋に寝かせれば大丈夫」という話をするそうですが、「部屋がなく、特別な対応ができないから」と言われてしまうそうです。稲城の人は結構そういう方もいます。国内でもそういう状況ですから、それが今度、海外となれば、そういうことができるのかということも、一つ問題かと思えます。
- 委員：自分の子供は行かせるけど、向うから来たときは受け入れないということは、おかしいと思います。
- 委員：事業の内容を見てみると、だいたい青少年の関わりの場合には、ホームステイが主みたいに思います。そういうことであれば、稲城市内でもホームステイができる家庭がどれくらいあるか、ということも問題にしていけないのではないかと思います。
- 委員：同じ日本同士でもそういうことがあるので、結局、年によっては、大空町の児童をどこで受け入れるかということで、ホームステイじゃない部分で受け入れをして、あんまり良い思いをしないでお帰りになったこともあります。そういうこともよく考えていくことが必要です。
- 副委員長：いろんなケースがあると思います。話を振り出しにするようすども、異文化交流ですから価値観も違うし、状況も違うので、何を目的にするかという所がはっきりしないといけません。かつて国際交流の会でも、バーモント州から32名くらいを稲城で受け入れるためにホームステイの希望を募ってマッチングさせたことがありますが、結局経験だと思えます。まだ幼い子供たちのホームステイなので、子どもと一緒に寝るといことでやったのですが、大人の場合は難しい所もあります。そういうことも含めて、交流をする文化というもの、稲城の中で築いていくことも一方では必要だろうと思えます。それ自体がまた国際化ですので、その辺も含めて、今回の目的がはっきりして、それに合った、お金のことも含めた仕組み作りをしていかないと、国内でも海外でも、交流は難しいのかなという気がします。ですから、国内の方の姉妹都市・友好都市の会議の経過は知りませんが、国内においてもどういうことの判断でやっているのか。私は芸文連の会長だったので、大空町とも大人の文化交流を経験してきましたが、それはそれで町の事情がありますので、当然、費用の掛け方、使い方も違ったりします。どちらにしても、今回のこの話というのは、稲城にとっての姉妹都市・友好都市、その国内・海外ということのあり方について市民にアイデアを出して、どう在るべきかということ議論する、一つのきっかけを提供してくれたのかなと思っています。海外との姉妹都市というのが、可能な限り、特定の人のためではなく、市民のために、そして、この街の活性化のために、何かいい仕組み作りができればと思います。どこかの場所有きのような捉え方をされているようなところもありますけど、そうではなくて、本当に稲城の街にとっての海外姉妹都市というのは、どう

あるべきかということです。そして、この私たちの会議で付託された内容で、選定をして、それを市長に具申をするような形になるので、やっここで、いろんな資料等も行政の方からいただいて、稲城にとっての姉妹都市はどうあるべきかという、話のスタートには立ったのかなという気ではあります。いろんな方法論もあろうかと思えますし、皆さんも、各団体から出てきていただいていますので、そういったところのご意見も聞いたりしながらだと思えますけど、少し、時間をいただいて、それぞれがこんなような夢で、こんなような姉妹都市をしたいというような意見を、皆さんでアイデアを出していただく時間も必要なのかなと思えます。

委員 長：ホームステイありきで考えると、ホームステイはハードルが結構高いですから、そのハードルをどうやって越えるか、またはハードルを低くするか、その辺を皆で上手く知恵を出し合って、考えていけたら良いと思えます。

委員：交流なので、もちろん向うのことも考え、こちらのことも考えないといけません。日本の文化の良さ、それから、日本人の特性、東京オリンピック、もちろん稲城市の良いところ、さっき安全安心の話もありましたが、そう言った意味では、対海外の方は、こっちから言わなくても、稲城市に対して手を挙げてくることもあると思えます。是非そうなれば良いと思えます。ただ、全員で交流するのは難しいと思っていて、例えば野沢温泉村には小学校の6年生と中学校の2年生が全員、形式的には行っていますが、私立の学校に行っている子どもは行っていません。そういうことを言うと、交流なんてできませんので、限られた人でそこから始めるのが一つだと思えます。ただ、いろんな考え方があるので、もちろん大きく考えないといけないと思えます。教育、文化、経済、スポーツ、行政、今この資料に載っているのを考えると、それを複合的にやっていかないとやっぱり長続きしないと思えますので、是非、スカイプを使いながら交流していただければ良いと思えます。ただ、全員のことを考えても、前には進まないのかなと思えます。受け入れにしたって、日本人でさえホームステイで泊めるのは嫌だと言う人がいる中、「海外の方なんて受け入れられない」という家だってあると思えます。ホームステイだけでなく、こっちからPRできることは、稲城にはいろいろなところが、たくさんあると思えます。

委員：ホームステイという前置きがあるから難しいのであって、「交流」と言う形で来てもらえば、こちらに来た時に家庭に泊めなくてもいい訳です。どこかホテルなどに泊まっていたら、次の日の朝、何時にここで待ち合わせて、交流をしましょうと、そういう形もできると思えます。ですから、その辺のところを広く考えれば、交流というのは、いろんな形でできるのではないかなと思えます。

委員 長：一番先に考えたのは、東京オリンピックがあります。その時には、海外の方から、かなり交流をしたいという意見があると思えます。その時に、ホテルを取ってあげたりとか、そのホテルで交流したりとか、そういうことができるのではないのでしょうか。

委員：泊るところは、探せばたくさんあると思えます。例えば芸術文化団体だって、お花でいろいろ交流できるし、書道だって日本の文化だし、ホームステイをしなくても、泊るところを確保してあげれば二日でも三日でも交流ができると思えます。稲城だけじゃなく、例えば東京の銀座へ行きたいという方だっていると思うのです。そういう場所に招待したり、行ったりして、また、稲城に来たりして交流をする。要するにやり方だと思えます。まず

は、姉妹都市としてどこかを決め、それから、じゃあ稲城として何をしようか、という議論に入っていくことが良いと思います。

委員：東京オリンピックの件ができましたけど、今、ボランティアの講座でおもてなし講座というのが募集をかけられています。英語が堪能な方が稲城でもだいぶいらっしゃると思うので、例えばホテルを斡旋してあげて、銀座などを案内して、おもてなしをしてあげる。そういった交流はいくらでもできると思います。それともう一点。先ほど、スカイプの話が出てきましたが、学校の一学年全部で、業者を入れて大きな画面で映すこともできます。そういうことにお金をかけるんだったらみんなが使う学校教育の一つとして良いと思います。基本的には現地に行って、握手をして、ハグをしてというがあるのかもしれませんが、なくてもいくらでも交流はできるので、とりあえずスタートをさせるというのが私の考えです。

委員：ホームステイのつながりでの話ですが、市の広報で、「海外の方が来ますから、どんな方でもいいのでお宅に行かせていただけませんか」というように投げかけをして募集をすればいいと思います。例えば、家族、息子などが大きくなって家を出てしまっていて、部屋が空いているという方もいらっしゃると思います。ホテルとかもちろん良いと思いますが、空き部屋、空き家を利用していただくのもいいのかなと思います。

委員：たしかに外国の方をおもてなしするときに、泊めるというのは日本の家ではなかなか狭いということがあるので、大変だと思います。しかし、私はよくやるのですが、外国の人が息子の関係で、よく来るんですけど、そのときは必ず、夕食を家で一緒にするようにしています。家内が日本の特別な料理を作って、ときどき私はゴーヤを食べさせんですけど、苦いゴーヤを私が美味しそうに食べていると、変な感じで見えてきたりします。そういう交流からでもよくて、ホームステイにこだわらなくても、いくらでもできると思います。

副委員長：ホームステイの難易度の問題はあるのですが、市の方でも登録制でそういうようなこともしています。こういう交流をやろうということならば、ホームステイのことも含めて仕組み作りをしていかないといけないと思います。姉妹都市の交流が、非常に夢のある内容になればというように思っています。時代が変わって、IT化がどんどん進んでいますので、映像で同時に交流することも可能だろうし、状況が昔と今では全く違います。また、稲城という地理的な位置というのは非常にメリットがありますし、意外に産業分野も府中を始め、機能的にも集中しています。さらに、多摩川周辺には非常に多くの大学があり、都心にも近く、逆に都心に近いけど自然も多い。稲城の地理的なことも、位置的なことも含めて、非常に良いと思います。羽田も近いし、稲城インターもある。成田からもきやすい。だから、そういったことでもう一度、稲城の良さを再発見できるきっかけでもあるのかなと思います。以前に、市の発行している書類の中で、「成田から来る方法がわからない」と修正してもらったことがあります。市外、海外の人に配る目的であるならば、成田とか首都高速に接続している地図にする必要があります。

そのようなことで、何か稲城を再発見するきっかけにもなればなど、個人的には思います。

委員長：梨と桜が同時に開花する時期に来てもらうとか、泊るのはどこか都内を見学しながら泊ってもらうとか、いろいろあると思います。海外の方で、美味しい梨を食べたことがある人はいないのです。また、タイとか東南アジアの人はブドウが大好きです。だから、そうい

う人たちに稲城に来てもらおうという話もあります。こういった稲城の観光化のことを考えても、海外のお客さんとの交流はいいのかなと個人的に思います。

委員：海外の方は、新鮮なおいしい梨を食べたことはないと思います。食べ物という点で言えば、日本はナンバーワンですから。どの時期に来てもらっても、美味しいものを食べてもらえます。都市農業も頑張っている稲城市としては、野菜も年間を通じてずっとあります。

委員長：いろいろなことを考えると稲城も面白いものがたくさんあると思います。

委員：可能性としては、すごくいろいろなものがあります。いろいろなお話がありましたけど、もっと思いもしない物がいっぱいあるような気がします。その可能性の中では、キーワードとして、子ども達の交流とか、観光とか、スポーツとか、いろいろあるでしょうから、姉妹都市として、本当に夢の膨らみそうな場所がいいと思います。具体的にどこという話に今後はなると思いますけど、やっぱり目的という部分では、一つ何か最初の売りがあって、そこから膨らんでいくのが一つの方法なのかなと思います。

委員：話が拙速になってしまうかもしれませんが、色々ご提案があったのですが、具体的に相手が見えてこない、なかなか議論がしにくいという気がします。例えば、資料に姉妹都市を希望する一覧がありますが、本当に日本に興味があるのか、日本の文化に興味があるのか、はたして稲城を知っているのかどうかという吟味もまだされていない状況な訳です。そのため、この辺では議論は一杯一杯なのかなという気がします。

委員：稲城のいいところはいっぱいあると思いますが、ある程度場所を先に決めて、もしこの場所だったらこういうことができるということを検討していった方がいいのかなと思います。今、漠然とどういう交流ができるかという話をしていますが、どこの国とやるかによって違うと思います。ある程度、場所を絞って、それから、その中で、どういうことができるか、どういうことを希望をするのかについて、皆さんで検討していったらどうかと思います。

副委員長：今のご発言にあったように、今までに何回かの会議があり、今日もまた、姉妹都市の在り方とかいろんな資料を出していただいて、ある程度それぞれの内容について共通理解ができ、具体的には色々な交流のスタイルがあり、きっかけもいろいろあるという中で、「ああいうことができる」、「こういうこともできるんじゃないか」という議論をしているけれども、そろそろ国とか都市をイメージをしないと、具体的な話ができないというところまで来たのだらうと思います。じゃあ、どこにするかと聞かれると、すぐには答えられないし、困る話なので、それは次回の会議でも、今、12月なので、ちょっとこの会の進め方について、委員長のお考えをお聞きしたいと思います。あわせて、個人的に関心を持ったのですが、先ほど芸文連の委員さんが言われた論文も、できれば次回までに、皆さんにコピーして見てもらえればと思います。このように、前提になるお話は、比較的整理ができてきたのではないかなと思います。次は具体的にイメージの都市を皆で、ヨーロッパなのか、アメリカなのか、語学も配慮しないといけないのか、その辺のことについて、より具体的な話が進められる所まで来たのかなと言う気がします。

委員長：お話を聞いていて、やはり交流の在り方、やっぱり英語圏がいいのかなと言う風には感じています。私もそういう風に思います。その辺は、あと一回で決めるのか、ある程度ここで決めるのか。今日が3回目ですから、ある程度皆さんもだいたい会議の中で、どんな感

じかなというのも出ていると思いますが、今までお話しいただいた中で、例えば、DVDとかそういったもので、情報交換したりとかネット上でやったりとか、子ども同士チャットでやってみたりとかも考えられます。僕が小さいころとは全然環境が違うので、国境を飛び越えて繋がるのが可能です。だから、そういうことも加味した中で、ホームステイありきではなくて、交流の在り方について考え、ホームステイにしても、ホームステイはしたくないという人もいるだろうし、ホームステイをしたいと言う人もいるし、その辺は、今後意見が出てくると思います。意見は今のところで出尽くしたのかと思います。

副委員長：今のご発言の内容を聞いても、皆さんでの共通理解が立ったとするならば、具体的にどういふ風な都市をイメージしていくのかを含めた次の話だと思います。それならば、後1回で、その辺のことを含めて、これからの進め方について、皆さんにご意見をいただいたらどうでしょうか。1回目に配られました本会議の設置要綱をみていますと、海外姉妹都市の在り方及び候補地の選定、海外姉妹都市との交流事業等について、必要な事項を調査して、市長に提言すると書いてありますが、まだ入り口に立った状況であるという気もしないでもないし、あと1回では大変だと思います。その辺について、皆さんの率直な意見を委員長としてまとめられてはどうかと思います。

委員：やはり今日は3回目で、話としては、盛り上がってきたと思っています。次回4回目が計画されているということですが、それだけで収まるものではないと思います。ですから、来年度においても、ある程度、このメンバーで会議を続けていただきたいと、私は個人的に希望します。きっかけはいろいろ出ていますけど、とりあえずどこかと結びたいという高まった雰囲気は感じましたので、是非、提案としては、続けてこの会議をお願いできればと思います。

委員：計画では4回となっていますが、4回で全て結論を出すのは無理だと思います。来年度の予定というのは、行政側はどう考えているのか伺いたいと思います。来年度はないということなのでしょうか。

武藤部長：次回の4回目で結論を出してくださいということではありません。

委員：今の話の延長で、府中市さんの結果的に一つの出会いで形になっていますが、最初は検討会を設置したとなっています。どういう形で、どういう経過でこういう検討会を作ることになったのか、経過的なことを聞きたいと思います。稲城市のこの会議とある程度似ていますから、調べていただきたいと思います。それと同時に、出会いがあって、1年か2年など、何年かかけて、結果として締結したのかなど調べて頂ければ、この会議の進め方の一つの方法として見えてくると思います。

委員長：時間もありますので、会議での意見を一本化にするのは、また無理だと思いますので、意見を踏まえて行政側で、検討していただきたいと思います。

武藤部長：皆さんのご意見で、今回、今年度で結論は出さないで、継続をするということによろしいでしょうか。

委員：今年度を跨いでまた来年度というのと、おそらく私は、地区委員会としての権利が無くなってしまいます。できれば結果を見届けて行ければと思います。

委員：この委員は団体の代表なので、個人で言われると、少しそれは厳しいと思います。団体の推薦で皆さん出ていらっしゃると思います。本気で海外姉妹都市を考えるのなら、

団体の推薦者だけじゃなくて、例えば、会議に参加したいという人も、受け入れる、市民から公募する、そういった方も必要だと思います。それから、今日はこういう具体的な話、交流はどのこのといろいろな話をしたのですが、これをずっと続ける会議をまた来年度もお金を使ってやっていくというのは、あまり賛成できない所もあります。きちんとした内容があつての海外検討だったらいいのですが、あやふやなところで、じゃあ国から決めて行きましょうということでやるというのは考えられないという感じはします。また、私たちも市民代表者なので、団体の意見は聞いているんですけど、もっと、市民の方々の意見を聞きながら、一般の方を入れたりした方が良いと思います。あとはやっぱり子どもたちです。今、オリンピック教育でどの学校でも、オリンピック教育をおこなっていて、日本だけじゃなくて、海外のことも含めてやっています。そういうことで、小・中学校でも、海外に目が向いているところですので、海外と本気でやるのだったら、海外姉妹都市のことについて、小・中学校、ひとクラスでも、何処のクラスでもみんなやってもらえれば一番いいんですけど、稲城市で海外姉妹都市をやるんだったら、こういう国がいいよねとか、子どもたちに何回か話をしてもらったり、子どもたちに海外姉妹都市でできることは何かなどを、公募しても面白いのではないかと思います。ただこの会議だけを継続的にやるというのは、何となく、正直もったいないかなという気がします。もっと市民レベルの会議でもいいのではないかと思います。

委員：今のご意見に反対なのですが、いま皆さまがいろいろな団体から代表して来られて、様々な意見があり、これ以上いろんなものが入ってくると、意見の收拾がつかないと思います。それよりもむしろ逆に、国際交流の会の方が前回言われたように、4～5人くらいのチームを組んで、例えば目的は何で、何ができるのかとか、どこの国がいいのかとか、そういうことを検討する場があつてもいいのかなと思います。例えば、この会議を恒久会にしないで、グループ別に分けて、1時間討論して、そこで誰かが発表するというような、いろいろな方法があると思います。もう、何ができるのかということは今日で話が出ましたので、やはり我々は、とりあえず団体の代表として来ているので、常にここに来るには、ある程度の意見を集約して来てほしいと思います。

委員：是非そういう会議を市民レベルでやってもらいたいと思っています。稲城市の主催じゃなくて、個々の団体の主催で集まった会議で是非やって、もんでもらって、それをもう一段上の稲城市の会議に持ってくればもっと良い会議になるのではないかと思います。

委員：そこまで広げてしまったら決まらないのではないのでしょうか。やはり、折角こういう会があるのですから、この会で決めるのがいいと思います。でないと決まらないです。

委員：決まらないというのも一つの意見なのかもしれないと思います。

委員：ここまできたら、決めて、その後、それをどうしていくのかという形で持って行った方が、早く、実行に移せるのかなと感じます。

副委員長：今のご意見にもありますけど、青少年の保護者としての意見もあるだろうし、今回、一般公募で委員を取っていないので、もっと市民レベルということで主張をしたかったんだと思いますので、その辺はよくわかるところです。その辺も、仮にこれから追加で公募するというのもどうかわかりませんが、多くの意見を反映させたいということだと思います。ただ今日、時間的なものもありますし、相対的には後1回では厳しいというのが多くの意

見だと思えます。その辺、どういう風にするかというところを委員長の方でお示しいただければと思えます。

委員長：今回で第3回が終了して、予定では年度内にあと1回をやっていただくことになっていきます。今後の会議の進め方としては、年度を越えて検討したいというご意見もありますし、委員としてずっと関わってきて、団体から長として出ているのではないため、委員の権利がある本年度中にある程度けりをつけたいというご意見もわかります。

副委員長：委員については、団体の長が出席しているわけではなく、その団体の推薦者ですから、そこは組織の意思決定ということで、経過を引き継いで代わることも可能だろうし、選出方法はそれぞれの団体の意思にお任せすればいいことです。ただ、なるべく継続性が望ましいとは思えます。

委員：予算とかもどうなのでしょう。例えば続けるとなると、お金が発生するだろうし、視察団が必要だということにもなるかと思えます。そうしたときにまた補正予算となると、難しい面もあるのかと思えます。その辺はどうなのでしょう。

委員：都市の選定ということになると、ある程度の必然性というか理由付けが必要かと思えます。そこが拙速なのです。今までの提携を考えると、交流を重ねた結果、姉妹都市と言う形になっているので、なかなか残り1回だけでは、現実問題として難しいと思えます。行政の方たちの立場もわかりますけど、さっき言った市民感情もあるでしょうし、交流をある程度重ねた結果として、提携があるというストーリーが本当は望ましいと思ういます。

委員長：いずれにせよ、場所とかも絞られてくれば、一回は視察に行ったりしないといけませんから、それは考慮しておくことが必要ではないでしょうか。

委員：絞られてくると、また別な議論が出てきます。最初の会議で、フォスターシティー市の視察報告の資料について、私が求めた資料が出てきていません。フォスターシティー市の視察報告資料では市長さん、部長さん、課長さん、何を視察してきたのか、全然わかりません。それが議会に出た資料だというなら、それでいいかもしれませんが、私にはあの資料は理解ができません。もし、ここで、次のときに選定という話になるなら、本当に拙速な話になってしまいます。もし次回、そことやるというような話をされるのであれば、あの資料をきちんと説明してもらわないと、その議論は拙速だということで、それ以前の資料段階からきちんと説明してくださいということになります。あの資料で何がわかるんですか。ただ写真を貼っただけではないですか。私たちは行ってないのだから、行ってない人間がわかるような資料をください。ここに行きましたと写真を貼ってあるだけで、じゃあ何をしてきたのか、そういう説明が一回もありませんでした。次回どうお持ちになるかわかりませんが、それを議論に上げるとなるなら、その部分をきちんと説明ができなければ、議論はできません。

武藤部長：次で全てを決めていただきたいとは全く考えておりませんので、そこは誤解がないようお願いいたします。私もお願いしている方ですので、十分にご議論していただかないといけないと思っています。皆さんがもう少し続けることが、必要があるというご意見がございましたら、それは持ち帰るということになります。

委員：そのようなことであるのであれば、選定の方法だと思えますが、それを今後どういう風な形で、持っていくか。そこが非常にデリケートな部分でもあると思えます。

副委員長：いまのご意見にあったのように、具体的な選定をどういう風にするか、今度はそれイコール交流の中身ということがあり、さらに、相手方の都市を出してきた時に、それが可能かどうか、プラスするのかマイナスするのかという作業が出てきます。次はそういう話になる段階ではないかと思います。今予算のこともありまして、会議の継続であるとか、どこに行くかを決める人たちが、誰も行ったことがない所に決める訳にもいかないだろうし、そういうことになれば、それだけの配慮はしといてくださいということは、委員長としては事務局に言わざる得ないのではないのでしょうか。

委員：こちらが良いと言っても相手が駄目であるという場合もあると思います。逆に、稲城市と交流がしたいという都市を先に当たっていったらどうですか。

委員長：立場上言えないことですが、相思相愛じゃないと絶対にダメであると思います。いくらこっちで提携したいと言っても、相手があることです。やっぱりきっかけが大切であると思います。

委員：クレア（自治体国際化協会）の紹介の逆バージョンのような、こちらが申し出て紹介してもらえるところはないのですか。

武藤部長：クレア（自治体国際化協会）のホームページに、海外と姉妹都市交流を希望する自治体として稲城市を載せることは可能です。

委員：クレアのホームページに載せると、稲城市に興味のある海外のまちから反応がありますけど、時間がかかると思います。

委員：稲城市のホームページで、海外姉妹都市を希望するというPRを、英語や主要5カ国語くらいで載せておいたらどうでしょう。結構、世界中の人が見ていると思います。

委員長：商工会でもそうなんですけど、何の繋がりもないところからいきなり来られても、話を進めるのは難しいと思います。

委員：安全安心になりません。

副委員長：予算のことや、来年度のことはどうするのがいいでしょうか。

委員長：予算は取ってもらって検討しないといけないと思います。

武藤部長：来年度も続けて、この会議を継続して続けていくという考え方でよろしいでしょうか。

副委員長：1回では難しいということで、本年度で必ず終わりにするというご意向でもないようなので、あとは、私も、市民会議の要綱を見ると、選定をするということになっているので、どういう風にするのか、何処の都市になるかわからないにしても、必要な予算だけは取っておいてもらわないと困ると思います。デリケートなのは、視察のことだと思います。当初予算でどうこうという議論は当然出てくるものですから、その辺をどのように予算措置するのか、それこそ、海外の誰も知らない所に、行きもせずに決めるという、そんな無責任なこともできないですし、一方では特定していない所を予算措置をするのかという議論もあるだろうと思います。それはよく議会とも相談してもらわないと困ります。

委員長：あと一回で決めるのは無理がありますので、また、提携先を決めるにあたって、現地視察ということも出てきますので、その辺も踏まえて、配慮をしていただきたいと思います。

武藤部長：承るということよろしいでしょうか。

委員長：どこかの都市に絞られたときに、姉妹都市として相応しいか判断するために視察に行くということと、この会議を来年度も継続させていただくということ、この二つを、皆さんの

総意で、決めていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

委員：次の会議でそれを皆さんで結論を出すということですか。今決めるのではないということ  
でよろしいですか。次が提言の案を出すという形だと思うのですが、どうなのでしょう。

委員長：次の会議でその辺も、決めさせていただきたい。次年度も会議を継続していくということ  
と、もう一つは、姉妹都市の相手先が決まれば視察もする必要がある。この二つの点を、  
皆さんにご承認をいただきたいということで、よろしいでしょうか。

<「はい」との声あり>

委員：今、それを決めるということではなく、次回の会議でそれを議論することを承認するとい  
うことでしょうか。

委員長：次年度も継続していくということと、決まれば視察もありきということで、その辺のところを、  
市民会議の総意ということで、承認をしていただきたい。

委員：それでは、次回はどのような内容の会議になるのですか。

武藤部長：まず次回の日程についてご説明します。

宇田係長：次回の日程ですが、年が明けた後、2月の中旬頃を予定させていただきたいと思ってい  
ます。時間につきましては、午後7時からということで、日程の詳細につきましては、1  
月の早い段階で、皆様に日程のご都合をお聞きして、日程調整をさせていただいた上で決  
定したいと思います。

杉本課長：日程ですが、次回に、今後の会議の継続や現地視察をどうするのかという議論をするので  
あれば、日程の方は早急に調整をさせていただきたいと思っています。今、この中で、ど  
ういう形の結論を会として出していただくのかという状況を踏まえて、結果によっては、  
きちっと行政側の方でも準備しなければいけませんので、日程の方は調整させていただ  
ければと思います。

武藤部長：補足ですが、総意として次回の継続というのは、しっかり承った形かと思っていますが、  
視察の話になってしまうと、十分議論が煮詰まっていないということもあると思います。  
いずれにしても、予算の話がどうしても付いてくる問題でございます。従いまして、予算  
の積算ということがございます。当初予算に載せられる時期というのがありまして、また、  
補正では難しいというのがいろいろご議論があったものですから、こちらとしましては、  
いまのご意見を考えれば、当初予算の算定の中に入れるべきかどうかというのを、我々も  
判断しないとイケませんので、そこの部分の時間の制限が出てしまいます。従いまして、  
その議論がここで現在見煮詰まらないということであれば、予算の時期に間に合うような  
形で、次回4回目の会議も開かせていただきたいと思います。そういう形で、最初は  
2月くらいの開催でいいのかなという考えもあったのですが、やはり1月くらいにも開か  
ないと日程的には難しいかと考えています。

副委員長：結論があと1回で出なくて、次回継続して、来年度もせざる得ないというのが今の結論だ  
と思います。今後、我々は都市の選定もしなければいけないということですので、常識的  
に誰が行く、何人行くかは別にしても、双方で確認し合うはずですから、海外なら当然、  
視察をして確認することはあるべきことですから、ここで決をとる、とらないは関係ない  
のではないのでしょうか。事務方として、予算措置すればいいことではないのでしょうか。こ  
こで手を挙げて、賛成、反対という話じゃないと思います。国内だって海外だって、友好

都市・姉妹都市を提携する時に相手方を確認しないで決めるっていうのは絶対ありえないです。常識的に考えられないと思います。

武藤部長：それでは、それに備えておくということによろしいでしょうか。

委員：予算的には厳しい時期です。今の時期でも厳しい。1月すぐに、たぶん12月末くらいには、だいたいほぼ出来上がっている、一部1月にずれ込むかもしれませんが、そういうルールでやっているはずですよ。2月の初めには議会に説明しなければいけませんし、印刷の時期もすぐに来てしまいますし。正直、厳しい日程だと思います。

武藤部長：ここでそのような準備をさせていただくという形で進めさせていただければ、こちらとしては、会議の日程につきましては、そこまで早くにする必要はありません。では、そうさせていただきますと思います。

委員長：お願いします。皆さんよろしいでしょうか。

<「はい」との声あり>

委員長：以上をもちまして、第3回海外姉妹都市提携検討市民会議を終了いたします。